



2026年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年11月13日

上場会社名 ジャパンクラフトホールディングス株式会社 上場取引所 東 名
コード番号 7135 URL <https://www.jcraft-hd.co.jp>
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）堀 孝子
問合せ先責任者 （役職名）常務執行役員 企画部長 （氏名）若園 和章 TEL 052-725-8815
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2026年6月期第1四半期の連結業績（2025年7月1日～2025年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年6月期第1四半期	3,209	△0.0	△87	—	△103	—	△125	—
2025年6月期第1四半期	3,209	△9.7	△125	—	△143	—	△219	—

（注）包括利益 2026年6月期第1四半期 △104百万円（－％） 2025年6月期第1四半期 △230百万円（－％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年6月期第1四半期	△3.37	—
2025年6月期第1四半期	△5.88	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2026年6月期第1四半期	11,435	3,477	30.2
2025年6月期	11,555	3,694	31.8

（参考）自己資本 2026年6月期第1四半期 3,455百万円 2025年6月期 3,672百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年6月期	—	0.00	—	3.00	3.00
2026年6月期	—	—	—	—	—
2026年6月期（予想）	—	0.00	—	3.00	3.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年6月期の連結業績予想（2025年7月1日～2026年6月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	14,598	3.9	334	408.7	262	—	178	—	4.77

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2026年6月期1Q	37,341,680株	2025年6月期	37,341,680株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2026年6月期1Q	20,948株	2025年6月期	20,948株
------------	---------	----------	---------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2026年6月期1Q	37,320,732株	2025年6月期1Q	37,320,733株
------------	-------------	------------	-------------

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業務等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、四半期決算短信 (添付資料) 3 ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(四半期連結貸借対照表に関する注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 経営成績等の概況

（1）当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善により緩やかな回復基調が続きました。一方で、物価上昇の継続や米国の関税政策による景気の下振れリスクが存在し、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループが属する手芸業界及び出版業界においても、原材料価格の高騰によるコスト上昇に加え、手芸コーナーの充実を図る百貨店との競合激化や趣味の多様化、愛好者の高齢化によるユーザーの減少など、経営環境は一層厳しさを増しております。

このような状況のなか、当社は、グループ経営理念「『手づくり』を通して豊かな心を育み幸せを紡ぐ企業グループへ」とその理念に基づいたサステナビリティ方針を掲げ、環境・社会・ガバナンス面での各種課題への継続的な取組みを通じて持続可能な社会の実現に貢献したいと考えております。このような考えのもと、足元の経営環境を踏まえ、当連結会計年度を初年度とする新中期経営計画（2026年6月期から2028年6月期）を2025年9月に公表いたしました。手芸市場における持続的な成長実現に向け、手芸の裾野拡大、収益性の向上、グループシナジーの深化の3つを骨子に据え、ライトユーザーの取り込み強化や、グループ各社の強みを生かした商品開発による他社との差別化、グループ各社の仕入・マーケティングの機能一元化に向けた取組みを推進しております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における経営成績は、売上高32億9百万円（前年同四半期比0.0%減）、営業損失87百万円（前年同四半期は1億25百万円の営業損失）、経常損失1億3百万円（前年同四半期は1億43百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失1億25百万円（前年同四半期は2億19百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

（小売事業）

小売事業では、藤久株式会社（以下、「藤久」という。）が営む「クラフトハートトーカー」ブランドを中心とした店舗とECにおいて様々な施策に取り組んでまいりました。手芸の裾野拡大に向けた商品開発の一つとして、人気の作家や飲食店とコラボレーションした生地や手芸用品等を1つの缶に詰め込んだ「手芸缶」シリーズの商品開発に取り組んでおり、2025年9月には、人気ハンバーガーチェーン店とコラボレーションした携帯向けソーイングセットの「手芸缶」を発売いたしました。

収益性の向上に向けては、市場調査を徹底し商品・サービスの価格適正化を順次進めるとともに、粗利確保に向け割引制度の見直しを図り、収益構造の改善に努めております。また、若年層を中心とした編み物ブームは前連結会計年度より継続しており、需要に対応し秋冬向け毛糸を例年より早期に導入したことも売上にも寄与しました。

全212店舗中52店舗で初心者向けの編み物講習会を実施し、コト体験充実による店舗モデルの進化を図っております。店舗網については、東北地区で1店舗、関東地区で1店舗、近畿地区で1店舗の閉鎖を実施したものの、東北地区にて1店舗新規出店いたしました。さらに一部店舗において新規顧客及びリピーター確保に向けた店舗改装を進行しております。

これらの結果、小売事業の売上高は25億10百万円（前年同四半期比2.1%増）、営業損失は20百万円（前年同四半期は59百万円の営業損失）となりました。

（出版・教育事業）

出版・教育事業では、株式会社日本ヴォーグ社（以下、「日本ヴォーグ社」という。）を中心に様々な施策に取り組んでまいりました。日本ヴォーグ社は、コンテンツ型ECサイトとして手芸市場でのオンリーワンポジションを確立すべく、自社ECサイト「手づくりタウン」の再構築を推進し、2025年10月のリニューアルオープンに向けた準備施策として、書籍の送料無料化や誕生日月のお客様へクーポンの配布等を実施いたしました。今後さらなる内容の充実を図り、より手づくりの楽しさや魅力を発信できるサイトの構築に努めてまいります。また、収益性の向上に向けては、全社的な構造改革に関する専担部署を設置いたしました。本部署を筆頭に抜本的な構造改革を推進し、黒字体質確立を目指してまいります。出版業界の縮小により引き続き厳しい状況であるものの、編み物ブームの継続により編み物関連の既刊本売上は好調に推移しております。

株式会社ヴォーグ学園（以下、「ヴォーグ学園」という。）では、毎年4月、10月の新規受講生募集に加えて、途中入学促進のために2025年5月から6月にかけて入学金無料等の特典が得られる「サマーギフトキャンペーン」を実施し、受講生増加に寄与しました。また、2025年4月には、ヴォーグ学園全校及びオンラインにて、手芸に関する知識を問う「手芸検定」を2026年1月に開催することを発表し、これまでに蓄積された手芸に関する情報やテキスト作成のノウハウを活かした新たな取組みを推進しております。

これらの結果、出版・教育事業の売上高は7億17百万円（前年同四半期比5.9%減）、営業損失は19百万円（前年同四半期は21百万円の営業損失）となりました。

（2）当四半期の財政状態の概況

（資産）

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ1億19百万円減少し、114億35百万円となりました。流動資産は1億52百万円減少し、74億72百万円となりました。流動資産の減少は、商品及び製品が1億12百万円増加したものの、現金及び預金が86百万円、受取手形及び売掛金が1億66百万円減少したこと等によるものであります。固定資産は33百万円増加し、39億63百万円となりました。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ97百万円増加し、79億58百万円となりました。流動負債は1億48百万円増加し、57億88百万円となりました。流動負債の増加は、契約負債が1億40百万円、未払法人税等が80百万円減少したものの、短期借入金が4億円増加したこと等によるものであります。固定負債は51百万円減少し、21億69百万円となりました。固定負債の減少は、長期借入金が58百万円減少したこと等によるものであります。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ2億16百万円減少し、34億77百万円となりました。純資産の減少は、配当金の支払1億12百万円及び当第1四半期において親会社株主に帰属する四半期純損失1億25百万円を計上したこと等によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年6月期の連結業績予想につきましては、2025年8月8日に公表いたしました「2025年6月期 決算短信」の通期連結業績予想からの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

（1）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2025年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,304,539	2,217,718
受取手形及び売掛金	930,888	764,000
商品及び製品	3,892,480	4,004,962
仕掛品	14,014	21,973
貯蔵品	3,594	2,844
その他	480,613	461,952
貸倒引当金	△1,303	△1,157
流動資産合計	7,624,826	7,472,293
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	767,247	766,770
土地	2,186,619	2,186,619
その他（純額）	33,796	38,471
有形固定資産合計	2,987,663	2,991,861
無形固定資産	42,012	44,579
投資その他の資産		
差入保証金	721,098	713,046
その他	179,418	214,164
投資その他の資産合計	900,516	927,211
固定資産合計	3,930,193	3,963,652
資産合計	11,555,019	11,435,945

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2025年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	462,231	600,886
電子記録債務	484,499	493,204
短期借入金	2,480,000	2,880,000
1年内償還予定の社債	40,000	40,000
1年内返済予定の長期借入金	394,719	392,220
未払法人税等	100,922	20,033
契約負債	620,345	479,578
賞与引当金	23,517	33,856
株主優待引当金	97,171	71,775
店舗閉鎖損失引当金	8,979	6,221
資産除去債務	24,783	9,854
その他	902,791	761,256
流動負債合計	5,639,960	5,788,886
固定負債		
社債	40,000	30,000
長期借入金	579,573	520,689
繰延税金負債	543,450	557,058
退職給付に係る負債	393,940	389,335
資産除去債務	544,991	555,234
その他	118,712	117,176
固定負債合計	2,220,667	2,169,493
負債合計	7,860,627	7,958,380
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	355,761	194,349
利益剰余金	3,166,716	3,090,218
自己株式	△7,747	△7,747
株主資本合計	3,614,730	3,376,819
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	57,420	78,504
その他の包括利益累計額合計	57,420	78,504
新株予約権	22,240	22,240
純資産合計	3,694,391	3,477,565
負債純資産合計	11,555,019	11,435,945

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）

（単位：千円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 2024年7月1日 至 2024年9月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2025年7月1日 至 2025年9月30日）
売上高	3,209,951	3,209,284
売上原価	1,358,492	1,376,630
売上総利益	1,851,459	1,832,654
販売費及び一般管理費	1,976,572	1,919,791
営業損失（△）	△125,112	△87,137
営業外収益		
受取利息	248	1,372
受取配当金	180	197
受取保険金	—	219
その他	1,796	492
営業外収益合計	2,224	2,281
営業外費用		
支払利息	13,746	18,159
株式交付費	6,225	—
その他	640	776
営業外費用合計	20,611	18,936
経常損失（△）	△143,499	△103,792
特別利益		
投資有価証券売却益	—	95
特別利益合計	—	95
特別損失		
減損損失	49,512	—
固定資産除却損	—	0
特別損失合計	49,512	0
税金等調整前四半期純損失（△）	△193,012	△103,696
法人税、住民税及び事業税	21,770	20,033
法人税等調整額	4,680	2,161
法人税等合計	26,450	22,194
四半期純損失（△）	△219,462	△125,891
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△219,462	△125,891

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年7月1日 至 2025年9月30日)
四半期純損失 (△)	△219,462	△125,891
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△11,126	21,084
その他の包括利益合計	△11,126	21,084
四半期包括利益	△230,589	△104,807
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△230,589	△104,807
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（セグメント情報等の注記）

I 前第1四半期連結累計期間（自 2024年7月1日 至 2024年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	小売事業	出版・教育事業			
売上高					
外部顧客への売上高	2,459,333	750,618	3,209,951	—	3,209,951
セグメント間の内部 売上高又は振替高	655	12,001	12,656	△12,656	—
計	2,459,988	762,619	3,222,607	△12,656	3,209,951
セグメント損失(△)	△59,661	△21,793	△81,455	△43,657	△125,112

（注） 1 セグメント損失（△）の調整額△43,657千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△47,241千円及び未実現利益の調整額3,584千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

2 セグメント損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する事項

（固定資産に係る重要な減損損失）

当第1四半期連結累計期間において、「小売事業」セグメント49,154千円、「出版・教育事業」セグメント358千円の減損損失を計上しております。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間（自 2025年7月1日 至 2025年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	小売事業	出版・教育事業			
売上高					
外部顧客への売上高	2,509,998	699,285	3,209,284	—	3,209,284
セグメント間の内部 売上高又は振替高	595	18,393	18,988	△18,988	—
計	2,510,593	717,679	3,228,273	△18,988	3,209,284
セグメント損失(△)	△20,505	△19,893	△40,398	△46,738	△87,137

（注） 1 セグメント損失（△）の調整額△46,738千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△51,803千円及び未実現利益の調整額5,064千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

2 セグメント損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する事項

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（四半期連結貸借対照表に関する注記）

1. 当座貸越契約（借手側）

連結子会社においては、運転資金の効率的な調達を行うため当座貸越契約を締結しております。これら契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年9月30日)
当座貸越極度額	1,240,000千円	1,240,000千円
借入実行残高	630,000	730,000
差引額	610,000	510,000

2. シンジケートローン

当社においては、運転資金を安定的かつ機動的に調達することを目的として、2023年2月24日付で名古屋銀行をアレンジャーとする金融機関4行によるタームアウト型コミットメントライン契約を締結しております。この契約には以下の財務維持要件が付されており、下記の財務維持要件のいずれかに抵触した場合、金利の引き上げが行われます。

なお、2024年6月に終了する決算期において抵触いたしましたので、金利の引き上げのみがありました。

- ① 2023年6月に終了する決算期及びそれ以降に終了する借入人の各年度の決算期の末日における借入人の連結の貸借対照表における純資産の部の金額が、それぞれ2022年6月に終了する決算期の末日における借入人の連結の貸借対照表における純資産の部の金額の75%の金額以上であること。
- ② 2024年6月に終了する決算期及びそれ以降に終了する借入人の各年度の決算期に係る借入人の連結の損益計算書に示される償却前経常損益が、それぞれ2期連続して損失とならないこと。

なお、これら契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年9月30日)
シンジケートローン契約極度額	2,900,000千円	2,900,000千円
借入実行残高	1,450,000	1,750,000
差引額	1,450,000	1,150,000

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自2024年7月1日 至2024年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2025年7月1日 至2025年9月30日)
減価償却費	19,789千円	19,820千円